

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「ものづくり」を通した教育を念頭に置き、全ての教育活動において以下のことを実践し、地域に信頼され、生徒が誇りをもって卒業できる学校をめざす。
1. 生徒一人ひとりの総合的な人間力の充実が図られており、大きく変化する社会の中で自立して力強く生きる生徒が育っている。
2. 自信を持ち、自ら変革を起こせる生徒、自ら新しいことに粘り強く果敢にチャレンジする生徒が育っている。
3. 実践的な教育内容の充実を図ることにより、各種検定試験合格、各種資格取得、各種コンテスト及び各種競技会に積極的に取組む生徒が育っている。

2 中期的目標

1 確かな学力を育成する学校 (1)基礎・基本の学力を定着させ、より専門性の高い技術・技能の習得をめざす。 ア 公開授業や研究授業を積極的に推進するとともに、授業アンケートを活用し授業改善に取り組む。 イ 少人数授業の展開や実習内容の充実を図り、「わかる授業」「考えさせる授業」を展開する。 ウ 信頼関係に基づいた指導を充実させ、個々の生徒の実態応じた指導を実践し、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を育成する。 *生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすく行われている」肯定率（平成 27 年度 1 年生 65％）を毎年 5％以上引き上げ、平成 30 年度に 80％を達成する。 *生徒向け学校教育自己診断の「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる」肯定率（平成 27 年度 1 年生 65.8％）を毎年 5％以上引き上げ、平成 30 年度に 80％を達成する。 (2)各種検定合格や資格取得、各種コンテスト応募や競技会等の出場を積極的に指導していく。 *卒業までに 3 つ以上の検定試験合格・資格取得をめざす。
2 豊かな心をはぐくみ夢と志を持つ生徒を育成する学校 (1)生徒との信頼関係を基本とした毅然とした生活指導を行い、問題行動の未然防止や再履修生徒や転・退学生徒の減少に努める。 ア 挨拶指導・遅刻防止指導・携帯電話指導・校内美化指導・通学時の自転車マナー指導を徹底する。 *平成 30 年度には遅刻生徒数を平成 27 年度（13,359 人）の 30％減を目標とする。 *平成 30 年度には再履修生徒数、転退学生徒数共に平成 27 年度（再履修生徒数 21 人、転退学生徒数 89 人）の 30％減を目標とする。 (2)人権教育を推進し、社会人に相応しい人格と態度を養う。 ア 発達段階に応じた人権教育と、学年別人権教育の充実を図る。 *生徒向け学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」肯定率（平成 27 年度 63.1％）を毎年 5％以上引き上げ、平成 30 年度に 80％を達成する。 (3)生徒の自己実現への支援に努める。 ア 教育相談体制の充実に向け、分掌・学年・系・教科の連携を深める。 *生徒向け学校教育自己診断の「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」肯定率（平成 27 年度 61.3％）を毎年 5％以上引き上げ、平成 30 年度に 80％を達成する。 イ キャリア教育の充実に努め、インターンシップの実参加者数（平成 27 年度 94 人）、毎年 100 人以上を達成する。 *生徒向け学校教育自己診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある」肯定率（平成 27 年度 72.7％）を毎年 5％以上引き上げ、平成 30 年度には 90％を達成する。 ウ 就職率 100％を堅持するとともに、公務員や大学進学を希望する生徒の指導の充実を図る。また、離職率調査を実施し、進路指導に活かすとともに、3 年以内の離職率 20％未満をめざす。 (4)読書活動を推進し、生徒に読書の大切さを指導する。 ア 授業での図書館利用を推進する。 イ 図書館の開館時間を確保し、図書の貸し出し数を増やす取組を行う。
3 安全安心で魅力ある学校 (1)生徒会活動、部活動の活性化を推進する。 ア 学校説明会、体験入学等の学校行事に生徒が積極的に関わるように指導していく。 イ 部活動の活性化に向けた取組みを積極的に推進する。 *部活動の加入率を毎年 5％増加させ、平成 30 年度には 50％以上にする。 (2)年 2 回の公開授業を継続するとともに、PTA 活動や学校協議会等の一層の充実を図る。 *保護者向け学校教育自己診断の「この学校の学校行事（体育祭・文化祭・授業参観等）に参加したことがある」肯定率（平成 27 年度 47.8％）を平成 30 年度までに 65％に引き上げ、これを維持する。 *保護者向け学校教育自己診断の「学校では、PTA 活動は活発である」肯定率（平成 27 年度 69.8％）を平成 30 年度までに 75％に引き上げ、これを維持する。 *保護者向け学校教育自己診断の「学校は、教育情報について提供の努力をしている」肯定率（平成 27 年度 76％）を維持する。 (3)生徒に対しての防災教育を推進し、防災マニュアルの更なる見直しを進めていく。 *生徒向け学校教育自己診断の「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか。知らされている」肯定率（平成 27 年度 73.5％）を平成 30 年度には 75％以上とする。 (4)各種のイベントに積極的に生徒が関わるように指導する。 ア 大阪府産業教育フェア、西淀川ものづくりまつり、大正ものづくりフェスタ、地元商店街と連携したイベント等への積極的な参画。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 28 年 11 月実施分〕	学校協議会からの意見
・生徒については全体的には肯定的な意見が増加しており、教員の丁寧な指導が実を結びつつあることが伺える。 ・1 年生で「授業がわかりやすく行われている」が昨年度より増加しているのは、基礎学力向上への少人数展開の授業の取組みが評価されたと考えられる。 ・保護者、生徒ともにトイレ等の学校施設設備に対する評価が低く、改善の余地があると思われる。 ・教員が生徒に寄り添った丁寧な指導を意識していることが伺える。	【第 1 回協議会】平成 28 年 5 月 26 日実施 ・基礎学力向上のために A L を取り入れた授業は、今後も継続して実施してほしい。 ・遅刻の減少とともに、挨拶運動や校内美化の取組みも推進してほしい。 【第 2 回協議会】平成 28 年 10 月 5 日実施 ・基本的な生活習慣を確立する取り組みは、学力向上にも繋がるので更なる推進を期待。 ・広報活動を活性化し、学校の現状を理解する取組みを進めてほしい。 【第 3 回協議会】平成 29 年 2 月 8 日実施

府立西野田工科高等学校

・教育活動全般について、P D C Aサイクルを意識した取組みをしていると感じている教員の意見が増加しており、今後も課題改善の取組みを推進したい。	・遅刻者数は昨年に比べて 50%以上減少している。さらなる工夫や生徒への丁寧な指導を推進してほしい。進路指導では、入社後を見据えた指導に取り組み、離職率低減につなげてほしい。
・保護者の提出率が9ポイント増加。貴重な意見を学校経営に活かしていきたい。	・クラブ活動の活性化などを通じ、生徒が授業に取り組む雰囲気づくりを進めてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力を育成する学校	(1)基礎学力の定着 ア 授業アンケート、公開授業及び研究授業の活用。 イ 「わかる授業」「考えさせる授業」を展開するための教員研修の実施。 ウ コミュニケーション力の育成を図り、プレゼンテーション力を培う。 エ 1年生の基礎学力向上への取組を推進する。 (2)資格取得等の推進 資格取得や各種検定試験やコンテストへの積極的な参加をすすめる。	ア 公開授業・研究授業の実施 校内向け授業公開月間を設定し、専門以外の授業も見学して授業改善に取り組む。 イ 教員研修の実施 フォローアップ研修や初任者研修及び10年経験者研修等を活用した教員研修を行う。 ウ 課題研究発表大会の活用 各系において課題研究発表大会を実施し、下級生の参加も促す。 エ 指導計画に基づいた指導の徹底 オ 各系、教科等で取得可能な資格を積極的に推進 資格取得情報を学校HPへも随時更新していく。	ア 一人が1回以上他教科の授業見学を実施する。 イ 各系、教科等で校内外の公開授業を実施し、授業改善を進める。 ウ 各系で発表大会を実施し、下級生の目的意識の向上を図り、学校全体としての取組をすすめる。 エ 生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすく行われている」(平成27年度65%)を70%にする。 オ 前年度を上回る資格取得等の合格者数、コンテスト参加者数を出す。	ア 授業公開月間の設定を行い、他の教員の授業を見学した教員の割合は 74.7%で前年度より3倍増となり、各教員の授業改善に向けた意識の高まりがうかがえる。(○) イ 初任者研修、フォローアップ研修及びパッケージ研修を活用した授業改善の取組みを推進したが、各教科や各系の研究授業への取組みが今後の課題。(△) ウ 課題研究の発表大会を学校全体の取組みとして初めて実施。2年生の生徒の意識向上を図った。(○) エ 生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすく行われている」肯定率は 70.5%で前年度比 5.5%増。(○) オ 前年度を上回る資格取得等の合格者数については前年とほぼ同数。昨年度に合格者がなかった計算技術検定2級、リスニング英語検定2級、建築積算士補にも合格者を出すことができた。(○)
2 豊かな心をはぐくみ夢と志を持つ生徒を育成する学校	(1)信頼関係を基本とした生徒指導の取り組み ア 挨拶運動・遅刻防止指導を推進する。 イ 校内美化運動や登下校時の自転車運転の安全意識の向上を図る。 (2)発達段階に応じた人権教育と、学年別人権教育の充実 (3)キャリア教育の充実 (4)教育相談体制の充実 (5)読書活動の推進	ア 遅刻防止指導の徹底 遅刻者に対する特別指導（早朝登校指導等）を徹底する。 イ 自転車運転のマナー向上の指導を徹底する。 ウ 廊下等の美化意識向上に努める。 エ 充実した人権ホームルーム 人権教育推進委員会と連携して、計画的に実施する。 オ インターンシップ等の活性化 企業連携実習や地域連携事業の充実を図る。 カ 教育相談室の活用推進 広報誌「マインド」の定期的な発行で生徒の意識を高める。 キ 図書館の積極的な活用推進 新着本の案内等で、教職員や生徒の図書館活用の意識を高める。	ア 遅刻生徒数（平成27年度13359人）、再履修生徒数(同21人)、転退学者数（同89人）15%減を目標とする。 イ 生徒向け学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」（平成27年度63.1%）を5%引き上げる。 ウ インターンシップの実参加者数100人を目標とする。生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」(平成27年度72.7%)を5%引き上げる。 エ 生徒向け学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」（平成27年度61.3%）を5%引き上げる。 オ 図書通信の発行と生徒向けの本の貸出冊数(平成27年度138冊）の増加。	ア 遅刻生徒数は前年度比 49%減少（6803人）で目標を大きく上回り、学校全体の取組みが前進したことにより、生徒の意識の向上につながった。再履修生徒数は23人、転退学者数は74人。(◎) イ 生徒向け学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」肯定率は 67.2%で前年度比 4.1%増。(○) ウ インターンシップの実参加者数は125人で目標は達成。生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」肯定率は 73.2%で前年度比 0.5%増。(○) エ 生徒向け学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」肯定率は 62.3%で前年度比 1.0%増。(△) オ 図書通信の発行は前年度1回であったが、今年度は2回発行し生徒への読書活動の啓発に努めた。生徒向けの本の貸出冊数は 96冊で前年度より 42冊減少。(△)
3 安全安心で魅力ある学校	(1)生徒活動の活性化 ア 学校行事等に主体的に生徒が関わるよう支援をする。 イ 部活動が活性化するよう学校全体で取り組む。 (2)開かれた学校づくり 授業公開を行うなど、PTA活動や学校協議会等の充実を推進する。 (3)防災教育の推進 避難訓練や研修を通して防災意識を高める。 (4)外部イベントへの積極的な参加	ア 体験入学や学校説明会等に主体的に生徒が取り組む学校行事を企画する。 イ 部活動の加入率向上、活動の活性化を推進する。 ウ 公開授業の実施やHPでの発信により学校の教育活動を積極的に情報発信する。中学校訪問を実施し、本校の特色ある教育活動をアピールする。 エ 防災研修等を通して防災意識を高め、地震や津波、火災を想定した避難訓練を実施する。 オ 各種の外部のイベントに積極的に参加し、ものづくり教育の充実を図る。	ア 体験入学や学校説明会に関わる生徒数の増加をめざす。 イ 部活動の加入率（平成27年度40%）を45%に引き上げる。 ウ 保護者向け学校教育自己診断の「この学校の学校行事（体育祭・文化祭・授業参観等）に参加したことがある」（平成27年度47.8%）を10%引き上げる。 「学校では、PTA活動は活発である」(平成27年度69.8%)を5%引き上げる。 全教職員が中学校訪問を実施することをめざす。 エ 生徒向け学校教育自己診断の「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか。知らされている」肯定率（平成27年度73.5%）を75%以上に引き上げる。 オ 各種イベント等の外部発表の機会を増やす。	ア 体験入学や学校説明会において、生徒会の生徒等が積極的に関わる体制が構築できた。生徒会の生徒が朝の通学時に、通用門に立って挨拶をする今取組みがスタート。(○) イ 部活動の加入率は38%（平成28年度）で前年度比2%減。(△) ウ 保護者向け学校教育自己診断の「この学校の学校行事（体育祭・文化祭・授業参観等）に参加したことがある」肯定率が 51.8%で前年度比4%増。「学校では、PTA活動は活発である」肯定率は61.9%で7.9%減。学校教育自己診断の保護者の提出は前年度比9%増で、学校からの情報発信は前進している。全教職員が中学校訪問を実施し、昨年度より40校多い中学校を訪問。(○) エ 生徒向け学校教育自己診断の「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか。知らされている」肯定率は 72.7%で前年度比0.8%減。(△) オ 大阪府産業教育フェア、西淀川ものづくりまつり、大正づくりフェスタ等への各種イベントへの参加数は前年度（9回）を上回る10回。ロボット相撲近畿地区大会等に加え、新規でマイコンカーラリーの近畿地区大会へ出場する等の取組みが前進。(○)